

椿キッズ

We are Tsubaki-kids.

第18号

鈴鹿市立椿小学校

Tel. 059-371-1014

令和4年9月16日

椿小の子どもたちの学力の傾向と今後について…「全国学力学習状況調査」の結果より

4月19日に、小学校第6学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、以下のとおりまとめました。



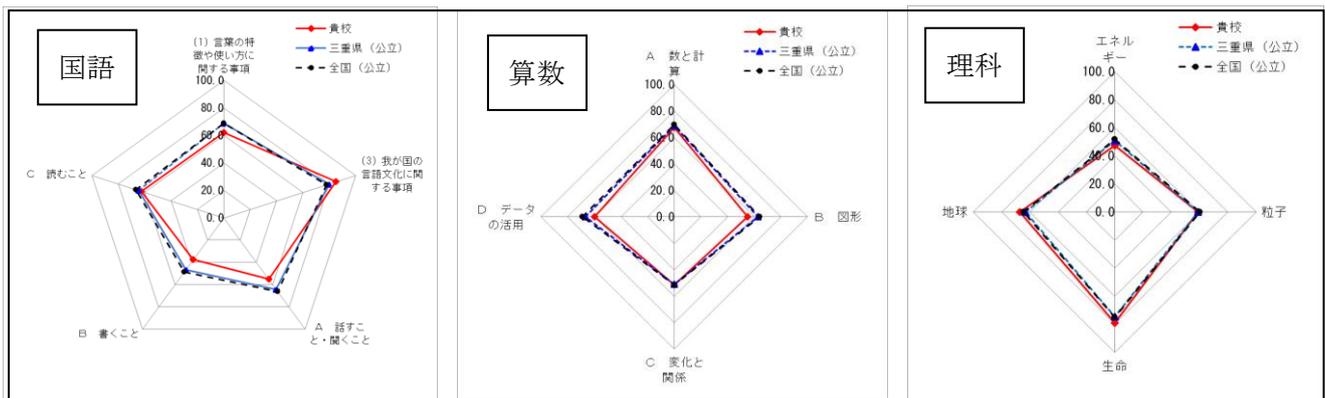
なお、この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。一方、学校では、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することにつなげます。ただし、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面としての、本校の傾向としてとらえ、今後の教育活動に生かしてまいります。引き続き、御家庭の御協力をお願いいたします。（6年生の保護者の方には、別紙にて詳しくお伝えします）

◆◆全国学力学習状況調査 平均正答率の状況より◆◆

平均正答率	国語	算数	理科
本校	59	60	64
鈴鹿市	63	62	63
三重県	65	62	63
全国	65.6	63.2	63.3

国語は県より4ポイント、国より6ポイント下がりました。算数においては国・県より2ポイントさがり、理科は1ポイント上がった結果となりました。

◆◆学習指導要領の領域の平均正答率の状況より◆◆



この表のように、平均正答率は国語、算数では下回り、理科では上回りました。

まず、国語は「我が国の言語文化に関する事項」の領域は全国・三重県の平均正答率を上回りましたが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は、平均に達していませんでした。特に記述式問題に関しては全国的に厳しい状況ですが、本校は36.7%とさらに低い状態です。おおよその人物像をつかんだり、話したいこと・聞きたいことを中心をとらえたりすることができるのは強みですが、叙述の語句や会話文、または情景描写から心情をとらえることや、紛らわしい漢字に弱みがあります。

また、算数においては、基本的な計算はできますが、「図形」「データの活用」が全国・三重県の平均正答率を下回りました。百分率や比例、加法・乗法の混合計算は強みとしますが、表の意味の

理解、割合と量の違い、正三角形・ひし形のプログラミング的思考に弱みがみられました。

さらに、**理科**においては、「生命」「地球」を柱とする領域が特によくできましたが、「エネルギー」の領域では全国・三重県の平均正答率を下回りました。

◆◆今後の取り組みについて◆◆

これからの子どもたちには、新しい知識を生み出す力、課題解決できる力が求められています。調べたり、考えたり、話し合ったりする協働的な学習をおこない、答えを作り上げる過程で身につく力が求められています。これまでの基礎基本を確実に定着させるところも大切にしつつ、低学年から系統立てて、深い学びにつながる授業づくりや学習習慣の定着につながる指導を今後していきます。具体的には、今後も通信でお伝えします。

国語…物語や説明文の内容を大まかにとらえ、自分なりに解釈して、伝えたいことを精選し、組み立てて、わかりやすく言葉で伝えたり、また既習漢字を用いて正しく書いたりすることができる練習。音読や読書活動など、読解力をつける様々な取組。書くことに慣れ、正しい作文の習熟を目指した長文の書き方のコツをつかませるための取組。自分の考えを持つ場を作り、言葉で正しく表現し伝える活動の場面の展開。

算数…日常生活と結びつけて活用できるように意識を向ける。割合や概数などの感覚的なものは、教科をまたいで取り上げる。学習内容をイメージしやすいように絵や図で表して考える習慣をつける。グラフの見方の指導の充実。複数の資料を読み取って、必要な条件にあわせて自分の言葉で説明する練習。図形の構成や特徴については、具体物を用いて想像力を養わせる。

理科…知識と体験が結び付いたうえでの概念形成ができるような授業の組み立て。経験からの予想、予想に基づいた実験、実験結果からの根拠に基づいた知識とする。

◆◆児童質問紙より～子どもたちの心の成長について◆◆

周りの様子を見て配慮ができる良い面もありますが、自分の殻を破り、自分の意見をもって、意志のある行動ができるような成長を期待したいです。そのためには自尊感情をさらに向上させるよう、道徳や総合的な学習の時間等を活用して、さまざまな事象について考えたり話し合ったり、児童主体となる活動や人や社会に働きかけるような活動を効果的に取り入れたりしていきます。見方を変えて深く考えさせる場面等を用いて、協働的に活動できるよう力をつけていきます。

さらに、地域の皆さんや専門家を講師として招聘したり、様々な立場の方たちとの出会いを通して、見聞を広め、体験的な活動に力を入れることで、子どもたちの意欲・関心をさらに高めていくよう教育活動を工夫していきたいと思います。



◆◆おうちの方へのお願い◆◆

児童質問紙から、ゲーム・スマホ等のスクリーンタイムの増加による睡眠時間不足、朝食の欠食、家庭学習・読書時間の減少がみられました。活字離れや学習意欲低下の危機を感じています。これらは、ここ数年以来の全国的な課題ともなっていますが、前号でもお伝えしているように、樺小学校全体で、さらに傾向が強くなってきています。まずは、各ご家庭における生活習慣を、今一度見直していただく、メディア利用のルールを決めていただくなどして、少しでも机に向かう時間の確保をしていただくとありがたいです。また、新聞（ニュース）や読書を通じて、いろいろな文章を読むことから、興味深い話題を取り上げ、会話をさせていただけるとありがたいです。

家庭における自主学習（意志を持った学習）においても、さらに自発的にできるような工夫を考え、ご家庭と連携しながら取組を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。